

症例を通して考える 当センターでのOTの役割

作業療法学科5期生

新潟県障害者リハビリテーションセンター

高野 友美

施設紹介

～新潟県障害者リハビリテーションセンター～



概要

- 開所日 平成18年4月1日
- 施設の種類 障害者支援施設
(旧肢体不自由者更生施設)
- 設置主体 新潟県
- 経営主体 社会福祉法人 豊潤舎
- サービス 障害者総合支援法
機能訓練24名・就労移行支援6名
生活介護6名・施設入所支援30名

職員の配置状況

職種	人数
施設長	1人(支援員兼務)
医師	2人(非常勤)
看護師	1人(常勤)
理学療法士	3人(非常勤)
作業療法士	2人(常勤) 1人(非常勤)
言語聴覚士	1人(非常勤)
生活支援員(職業指導員等兼務)	7人(常勤) 2人(非常勤)
事務員	1人(常勤)

提供サービス — 利用期間 —

- 機能訓練 (1年6ヶ月)
- 生活介護 (期間の定めなし)
- 就労移行支援 (2年)
- 施設入所支援

利用者状況

— 疾患名 —

順位	疾患名	人数(%)
1	脳卒中(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血)	44(60.3)
2	脳卒中以外の脳損傷(脳炎、脳腫瘍など)	12(16.4)
3	パーキンソン病以外の神経変性疾患	5(6.8)
3	脳性麻痺	5(6.8)
5	整形外科疾患(脊髄損傷、骨折など)	3(4.1)
5	パーキンソン病	3(4.1)
7	内部疾患	1(1.4)

※平成18年8月から平成25年8月までの施設入所支援利用者

利用者状況

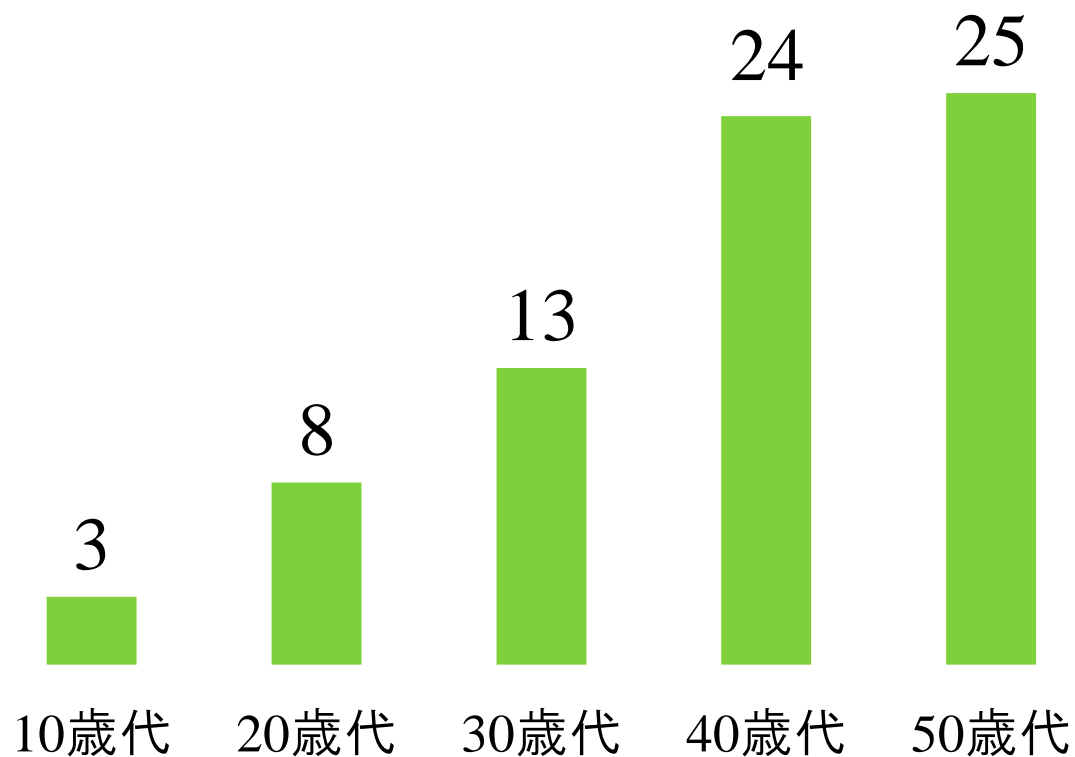
— 障害名 —

順位	障害名	人数(%)
1	高次脳機能障害	33(45.2)
2	左片麻痺	22(30.1)
3	右片麻痺	20(27.4)
4	構音障害	7(9.6)
4	四肢麻痺	7(9.6)
6	運動失調	6(8.2)
7	視力障害	2(2.7)
7	対麻痺	2(2.7)
9	下肢切断	1(1.4)

※平成18年8月から平成25年8月までの施設入所支援利用者

利用者状況 — 年齢 —

平均値42.8±標準偏差10.9歳



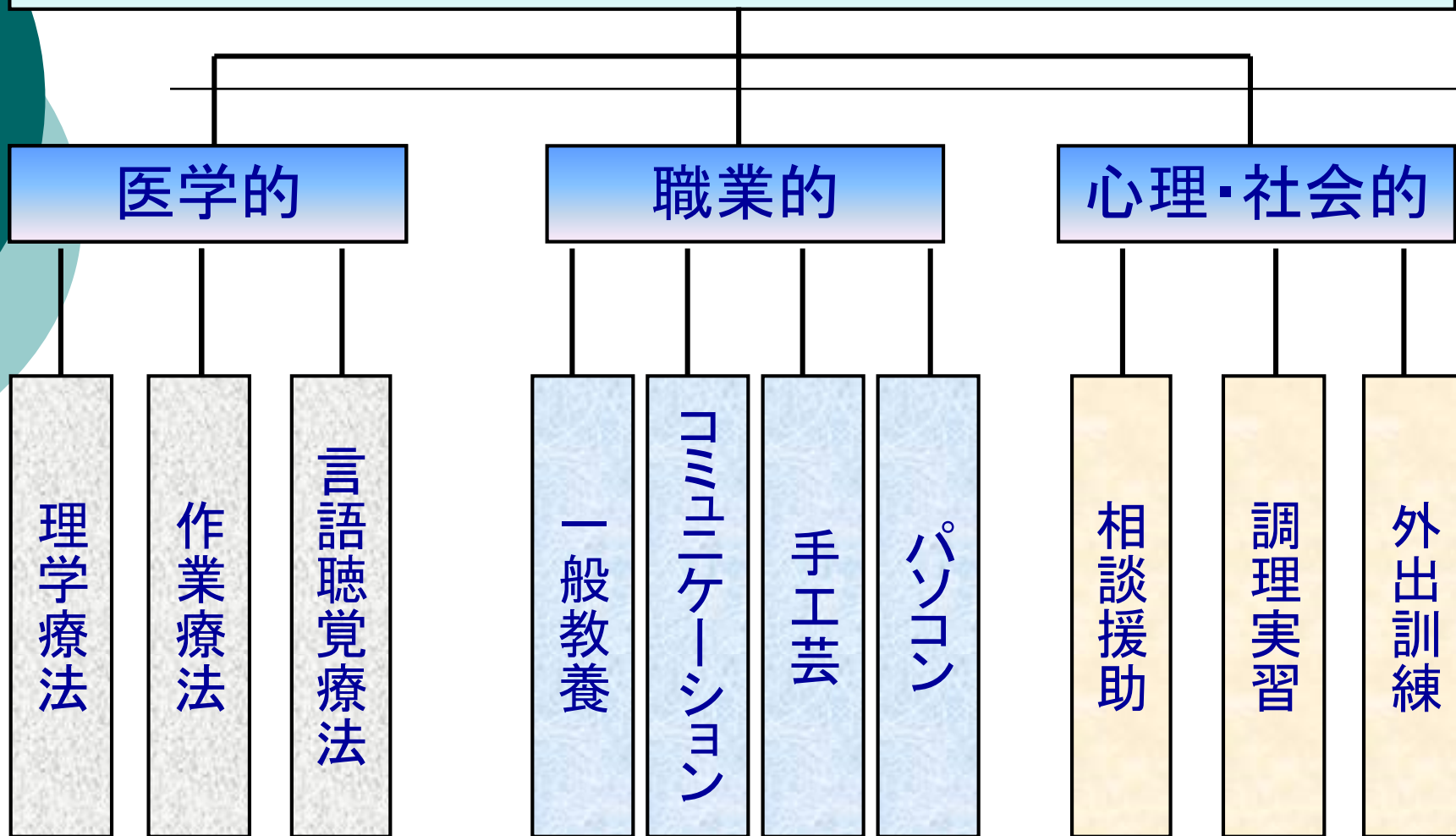
※平成18年8月から平成25年8月までの施設入所支援利用者

利用者状況 —利用目的—

順位	利用目的	人数(%)
1	就労	48(65.8)
2	身体機能向上	26(35.6)
3	一人暮らし	18(24.7)
4	日常生活動作能力向上	16(21.9)
5	高次脳機能向上	9(12.3)
5	自動車運転練習	9(12.3)
7	パソコンスキル向上	8(11.0)
8	公共交通機関の利用自立	3(4.1)
9	手段的日常生活動作能力向上	2(2.7)
10	資格取得	1(1.4)
10	グループホーム利用	1(1.4)

※平成18年8月から平成25年8月までの施設入所支援利用者

標準的なリハビリ内容（機能訓練・生活介護）



医学的リハビリテーション

—理学・作業・言語聴覚療法—

▼言語聴覚療法



▲作業療法



職業的リハビリテーション —一般教養コース—

～目的～

- 認知機能(記憶力、注意力等)の向上
- 代償手段の獲得 etc.

～訓練内容～

- 注意、記憶課題
- スケジュール管理
- メモリーノートの活用 etc.



▲ 認知機能課題

職業的リハビリテーション ーコミュニケーションコースー

～目的～

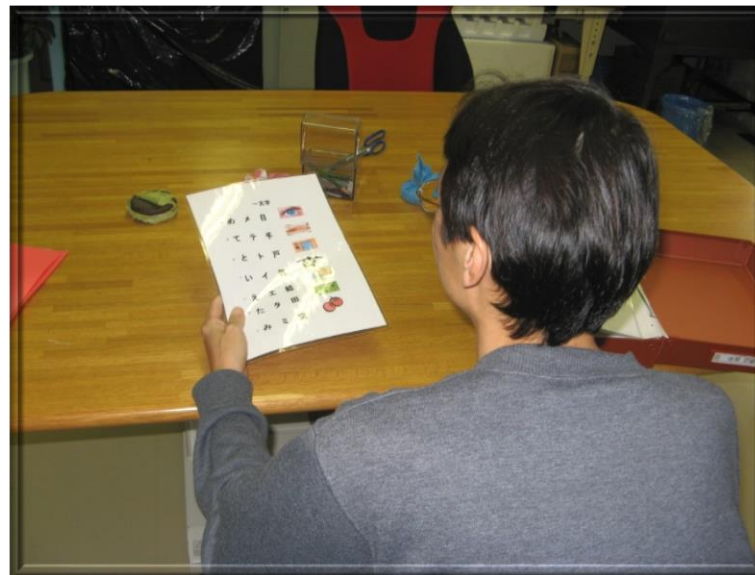
- 言語・発声機能の向上
 - 代償手段の獲得
- etc.

～訓練内容～

- 言語課題
 - ー失語症ドリル
 - ースピーチリハビリ
- etc.



▲ 言語課題



▲ 発声練習

職業的リハビリテーション

ー手工芸コースー

～目的～

- 集中力向上
 - 構成能力の向上
 - 巧緻性の向上
 - 趣味的活動への拡大
 - 生産活動への参加
- etc.

～訓練内容～

- 和紙・紙細工
- 手芸(刺し子、刺繍)
- タイル細工
- マクラメ、クラフトテープ手芸
- 塗り絵、水彩画、ちぎり絵
- 編み物、紐結び
- ステンシル、木工細工、パズル
- ボタン付け、アイロンかけ
- 版画、切り絵



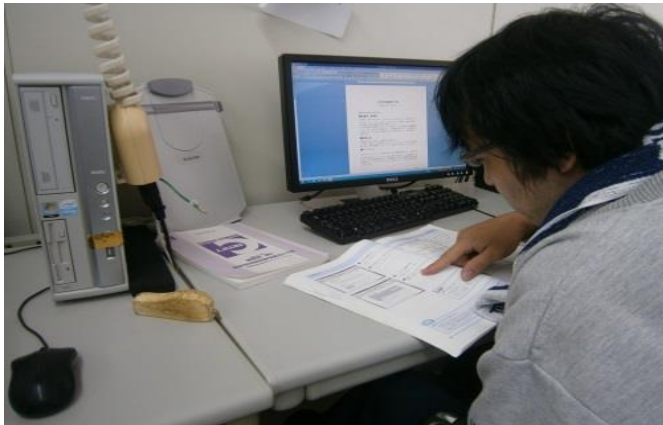
職業的リハビリテーション ーパソコンコースー

～目的～

- パソコン資格取得
 - 就職に必要な技術の習得
 - 認知機能の向上
 - 趣味的活動の拡大
 - インターネット情報の活用
- etc.

～訓練メニュー～

- Word
 - Excel
 - Power Point
 - 高次脳機能バランサー
 - インターネット
 - タイピング練習
- etc.



心理・社会的リハビリテーション

－相談援助－

～目的～

- 退所後、円滑な社会生活が送れるような相談援助
- 他専門機関及び関係機関と連携を図り地域移行・就労移行に向けた相談援助
- 自動車運転再開の支援 etc.

～支援内容～

- 障害年金受給申請
- 自動車運転免許更新
- 住宅改修への助言
- 補装具、福祉用具の作成
- 地域移行の相談
- 住宅探し
- 介護保険の活用
- 関係機関とのサービス調整
- 就職相談 etc.



自宅での移動の確認

心理・社会的リハビリテーション

ー買い物・調理実習ー

～目的～

- 調理技術の向上
- 健康管理
- 買い物練習

～支援内容～

- 献立の立案
- 買い物動作の確認
- 調理器具の活用(自助具など含む)



▲ 調理実習



▲ 買い物

心理・社会的リハビリテーション

－外出訓練－

～目的～

- 移動範囲の拡大
- 社会生活能力の確認
- 福祉サービスの活用

～支援内容～

- 公共交通機関の利用
(バス、JR)
- エスカレーター、エレベーター
の利用
- 階段、段差の移動
- 悪路の移動
- 横断歩道の往来確認

etc.



▲ 公共交通機関の利用

就労移行支援

一般就労

① 職業評価

② 関係機関との連携

③ 職業適性の把握

④ 補完手段の活用

⑤ 職業訓練

⑥ 職場見学・実習

⑦ 就職活動

復職

① 復職先との調整

② 関係機関との連携

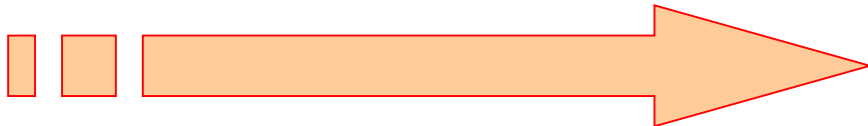
③ 復職リハビリ計画作成

④ 一般就労③～⑤同様

⑤ 復職先の環境調整

⑥ リハビリ出勤

⑦ 短時間勤務（職場定着支援）



1日の流れ

8:30	職員朝礼
8:50	利用者朝礼
9:00	個別リハビリ(利用者3~5名)
12:00	休憩
13:00	個別リハビリ(利用者3~5名)
16:00	事務作業
17:15	終了



リハスタッフの仕事

- ・身体機能評価
 - ・高次脳機能評価
 - ↳ 個別リハビリの実施、自主トレーニングの提示
 - ↳ 職能リハビリプログラムの検討
 - ↳ 本人・家族・就職先等の関係機関への心身状態の説明
 - ・福祉用具や補装具の選定、助言
 - ・外出訓練(公共交通機関利用評価)
 - ・調理実習
 - ・家屋評価、自宅周辺の環境評価
 - ・職場訪問(面談・職場環境確認)
 - ・自動車運転再開支援
- など



事例紹介

～病識低下のある利用者への就労支援～

事例

- A様 30歳代前半 男性
- 診断名：右被殻出血
高血圧性心不全
症候性てんかん(強直性)
- 障害名：左片麻痺 高次脳機能障害
視覚障害(高血圧性網膜症、左同名性半盲)
高血圧症
- 発症日：X月Y日

事例

- ・現病歴：仕事中、意識障害、嘔吐で発症し救急要請。
同日、緊急で血腫除去術施行。
Y+2日 リハビリ開始。
X+5ヶ月 全身けいれん発作あり。
X+6ヶ月 自宅退院
X+7ヶ月 当センター利用開始
- ・ニーズ：就労（パソコンの仕事ができればいい）
左手が動くようになりたい
- ・社会的背景：
 - ・持ち家で一人暮らし（近くに両親と兄家族の住む実家あり）
 - ・職業：トラック運転
 - ・身体障害者手帳 1種1級

評価（心身機能）

麻痺（Br.stage）：上肢Ⅲ 手指Ⅱ 下肢Ⅲ

感覚：表在・深部ともに重度鈍麻

高次脳機能面：注意障害、遂行機能障害、病識の低下

知的機能：平均値以下

評価項目	結果	平均値
かな拾いテスト 無意味 物語	27個 27個	28～46個 23～45個
TMT-A	200秒	18～56秒
TMT-B	232秒	57～135秒
WAIS-R	言語性知能指数88 動作性知能指数54 全知能指数72	知能指数90～109
遂行機能障害症候群 の行動評価（BADs）	85点	標準化得点90～109

評価 (ADL)

○ ADL:FIM 112点

屋内移動:自立(短下肢装具・四点杖使用)

屋外移動:見守り(車椅子使用)

入浴:見守り

更衣動作:見守り～一部介助(衣服の着脱衣不十分)

認知項目:社会的交流、問題解決項目で減点

評価（行動観察）

- ・訓練場面での様子

注意持続時間：15分程度

私語を始めたり、顔を伏せる様子あり

わからないことは、あきらめてしまう

- ・面談での様子

「前に少ししてたからパソコンの仕事ができたらいいです。」

就労形態の希望→「わかりません」

※一般就労を希望しているが、障害者の就労のイメージはなく
漠然としていた。

支援目標

長期目標：就労

短期目標：

高次脳機能面の改善（作業耐久性の向上）

身体機能の向上

公共交通機関の利用評価・練習

経過①

注意機能・身体機能面の改善(9か月後)

高次脳機能面の改善(作業耐久性の向上)

- ・15分程度⇒50分程度
- ・パソコン:文章入力は、見落としが多い。
疲労感も伴い20分程度で手が止まる。

身体機能面の改善

屋内:自立(短下肢装具使用)

屋外:見守り(横断歩道、周囲への配慮不十分)

入浴:自立

経過② 病識について

パソコン訓練を通して就労希望に変化が...

- ・就労希望：障害者雇用での一般就労
- ・作業内容：パソコン作業が性に合わないため身体系の職業（清掃業等）

身体機能的に
身体系の業務は
難しいのでは？

現在の作業耐久性
（集中力）で障害者
雇用での一般就労
は難しいのでは？

本人能力とニーズにギャップが生まれ始める

就労する上での精神障害と知的障害、身体障害の特性について説明するが現状を理解できず...



**支援目標の追加：障害者の就労現場の見学
障害者の就労についてのイメージを持ってもらう**

経過③ 障害者雇用のイメージ促進

自宅周辺の就労継続支援事業所(3事業所)を見学

作業内容:調理や袋詰めといった両手での作業
パソコン作業

【本人の感想】

「何となくだけど、就労がわかった。」

「これまでの就労実績が少ない所は嫌だ」



支援目標の追加:実習

今後の課題:通勤手段を検討

経過④

通勤手段の検討(動線の確認)

自宅からの通勤を想定し、自宅周辺の生活環境を確認

- ・自宅から駅⇒片道約50分
- ・自宅周辺は段差や斜面が多く、坂道は前方移動は困難が場所あり



【電車】

- JR利用:(車椅子)自立 (杖移動)見守り
- 駅までの移動:車椅子での実用性が低い。

【バス】

車椅子対応でない。

症例を通して感じたOTの役割

- **現在の**身体機能、認知機能を含め自己認識を促し、できることとできないことを知ってもらう。
- 今できないことは、代償手段を検討
- 障害をもちながら働くとはどういうことかを就職活動や実習を通して利用者自身に感じてもらい今後について共に考えていく。

さいごに

在宅でも病院でも、若年者で就労を目指しているが病識の低下や高次脳機能障害の影響から就労につながりにくい方がいると思われれます。

皆さんは、このような症例に対して、どのような支援を行いますか？

今後の支援について

- ・本人の能力とニーズのギャップを減少
⇒実習
- ・通勤手段の検討
⇒送迎付の就労継続支援A・B型